

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.121

(2016年3月刊行)

The Motivation of Participants in Successful Development Aid Projects:
A Self-Determination Theory Analysis of Reasons for Participating

Nobuo R. Sayanagi and Jiro Aikawa

Research Project: [主体性醸成のプロセスと要因にかかる学際的研究](#)

■付加価値

開発援助、特に能力開発の分野においては以前から対象者の心理に注目することの重要性が指摘されている。たとえば、能力開発プロジェクトにおいては援助機関が引き上げた後に対象者が訓練された技術を使い続けられないケースがしばしば見受けられる。このことから、対象者の動機づけなどの心理を研究すべきとの要望は多い。しかし、心理学研究で国際開発を扱ったものはほとんど見られない。この原因は、関心が低いということもあるだろうが、有効な研究枠組みが示されていないことや、実証研究に用いることのできる妥当な心理測度の欠如もあると考えられる。本研究では心理学の自己決定理論の枠組みを用い、成功したケニアと日本のプロジェクト対象者の動機づけを妥当に分類できるかどうかを検討し、さらに成功の動機づけ的な要因に関する示唆を得ようと試みた。有効な理論枠組みと心理測度を示すことで、今後の国際開発分野における心理学研究の呼び水となることが期待される。

■リサーチ・デザイン

本研究では、ケニアの SHEP（小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト）アプローチと日本の生活改善アプローチの複数の対象者と普及員に対し、それぞれのプロジェクトに参加する理由を問う半構造化面接調査を実施した。研究対象となったどちらのプログラムも成功事例だとされており、両者とも金銭的・物質的なインセンティブを用いないことが特徴としてあげられる。得られた回答は、事前に用意したコーディング・マニュアルに従い、自律性の程度が異なる4種類の動機づけ（外的調整、取入的調整、同一視的・統合的調整、内的調整）に分類した。コーディングは、2名で独立して評定し、評定基準の信頼性と妥当性を検証した。さらに、動機づけの分類結果から両プログラムの成功要因を検討した。

■主な結論（政策的含意を含む）

まず、2名が独立して評定した動機づけの一致率は高く、分類法の信頼性および妥当性が確認された。

次に、動機づけの分類の結果、自律性の最も高い「同一視的調整・統合的調整」だと評定された件数がどちらのプログラムでも最も多かった。自己決定理論では動機づけが自律的であるほど取り組みの持続性やパフォーマンスが高くなるとされており、本研究の結果でもその傾向を確認することができた。一方、最も他律的な動機づけの形態である外的調整に分類される「金銭のため」に取り組んでいるとの発言はごく少数しかなかった。これらのことから、開発援助プログラムにおいては、参加する普及員および対象者が自律的な動機づけを持つことが成功要因のひとつであることが示唆され、さらには金銭的・物質的なインセンティブがなくても十分に参加者を動機づけられることの裏付けが得られた。

さらに、本研究で得られた調査対象者の回答は、より多くのサンプルを集めることを可能にする質問紙調査票の作成に用いることが可能である。